

26年4月30日版

# 人工知能技術コンソーシアム 2026年度事業計画書



## 目次

---

1. 2026 年度の計画.....	2
2. ワーキンググループ（WG） .....	3
3. 各 WG の活動予定 .....	4
4. コンソーシアムの運営.....	12
5. 年間スケジュール（予定） .....	13
6. 収支予算.....	13

## 1. 2026 年度の計画

我が国が掲げる Society5.0、サイバーフィジカル社会の実現、デジタル変革(DX)の推進を目指し、人工知能技術や IoT・ビッグデータ活用、デジタル変革(DX)による課題解決に関心のある複数の企業や地域の関係機関を集め、全体会議やテーマごとの集会においてビッグデータを活用したデジタル変革(DX)推進プロジェクトや人工知能技術の活用事例(ユースケース)、動向の共有、意見交換、コンテストの開催及び協働プロジェクトの構想や実証結果の報告を行う。また同じ関心を持つメンバーから構成されるワーキンググループ(WG)を設け、各 WG 内で実証プロジェクトの立案、試行、協業を進めるなど、共創的価値創出を促進する。

2026年度は、各 WG や地域拠点となるグループの相互作用を促進するためのリアルでの活動を積極的に展開するとともに、オンライン情報基盤も併用して相乗効果を狙う。会員組織間での共創的価値創出をより加速させるとともに、AI 技術やビッグデータを用いたデジタル変革(DX)プロジェクトを定着させるための運用技術や価値創出、価値共創のプラットフォーム化を目指し、各 WG の活動の活性化もはかる。具体的には、多様な業種により構成された WG の中で、共通の課題を共有したメンバーを会員からの公募で増員し、協働プロジェクトチームとして活動し、実データ収集と技術シーズとのベストマッチング、価値あるユースケースとサービスやビジネスモデルの計画、ワークショップやコンテストを通じて具体的なアクションプランを構想、実施し、さらに振り返りとリフレームを繰り返す独自の метод論に基づき活動を展開できるような支援を行う。このアクションプランを実施した実証結果を得られたデータを分析、モデル化して効果を評価してコンテストなどで報告、表彰し、他の WG や地域のグループが参照できるような「リファレンスモデル」を集積し、教材としても活用することで、AI 技術の社会実装、デジタル変革(DX)推進モデルの水平展開、加速度的普及を目指す。このようにして得られたコンソーシアムの活動成果は地域支部 WG におけるセミナーや、公開シンポジウム、Web ページなどを通じて外部発信し、人工知能技術の社会実装、Society5.0 の実現、社会や産業のデジタル変革推進、デジタル時空間拡張に向けた取り組みとして認知度を高め、普及を促進していく。

## 2.ワーキンググループ（WG）

各WGは会員から構成メンバーを選出し、活動計画、予算案について運営委員の承認を得て活動を開始する。現在予定しているWGは以下の通り。必要に応じて新たなWGを追加することもありうる。また、共通の関心に基づく研究会も追加していく。

2026年度（22WG）

- ・Human Life WG
- ・ものづくりWG
- ・データマイニングWG
- ・AIツールWG
- ・AIRビングラボWG
- ・PoC Lab
- ・AIサービスシステムWG
- ・関西支部WG
- ・神戸支部WG
- ・地域連携WG
- ・教育WG
- ・九州支部WG
- ・東海支部WG
- ・観光WG
- ・データ・知識融合WG
- ・データプラットフォームWG
- ・医療・ヘルスケアWG
- ・ユースケースWG
- ・社会課題解決WG
- ・サイバーフードWG
- ・Human Resource WG
- ・バリューデザインWG

### 3. 各 WG の活動予定

#### (1) Human Life WG

リーダー：金子奈美（株式会社メディヴァ）

サブリーダー：田島史也（PwC ビジネスアシュアランス合同会社）

メンバー数：10 名

##### 【活動概要】

・多様な生活者の健康的な生活を維持・増進することを目的として、「誰も取り残さない健康」をテーマにデジタル技術、AI 技術活用の実証を行う。

##### 【プロジェクト】

1. オンライン・オンサイト健康イベントプロジェクト
2. リアルとオンラインを融合した健康イベントプロジェクト
3. リアル健康イベント健康屋台をメタバース空間で運営

#### (2) ものづくり WG

リーダー：上杉真太郎（株式会社 UACJ）

サブリーダー：寺田侑司（国立研究開発法人 産業技術総合研究所）

メンバー：16 名

##### 【活動概要】

AI 活用によるものづくり産業の抱える課題を解決し、競争力を確保することを目的に、具体的な AI 活用事例の共有や AI 活用技術の構築を行っていく。また、他の WG との連携も視野に入れ、多角的なアプローチを検討していく。

##### 【プロジェクト等の活動計画】

1. AI 活用事例の共有や、AI 活用についてのワークショップ開催
2. 具体的な課題解決手法の構築

#### (3) データプラットフォーム WG

リーダー：中野伊吹(大和ハウス工業株式会社)

##### 【活動概要】

SIP で研究開発している技術を社会実装するにあたり、様々なフィールド、ステークホルダーで実証することを目的としている。ステークホルダーごとで、目的や狙いが違う中で、いかに技術を転用できるのか、意味あるデータとして位置づけをすることが可能か、現地の人で運用が可能かなど、実務レベルに落とし込んだ検討を進めることにより、研究で終わらない技術の開発・活用を目指す。

##### 【プロジェクト等の活動計画】

1. コープこうベタイアアップ検討
2. 静岡銀行×西伊豆観光協会での検討

### 3. SIP 課題 7 のアミタとのタイアップ検討

### 4. 静岡県袋井市の団地における SIP 技術導入検証

#### (4) データマイニング WG

リーダー：武藤 雅基（株式会社 NTT データ数理システム）

サブリーダー：湯浅 麻紀子（株式会社 NTT データ数理システム）

##### 【活動概要】

・企業におけるデータ活用を促進し、ビジネス課題を解決するための情報や事例の共有を行います。

特に、データマイニングや機械学習といった大量データに対する分析技術に焦点を当て、2025 年度も引き続きオープンイベントの開催を計画しています。

##### 【各プロジェクトの活動計画】

前年度に引き続きオープンイベントの開催を計画。

#### (5) AI ツール WG

リーダー：石田 和宏（株式会社クリアタクト）

メンバー：9 名

##### 【活動概要】

AI ツールの実証実験を推進し、社会実装を促進することを目標として活動しています。

##### 【プロジェクト等の活動計画】

###### 1.ほいくあい PJ

「早期離職防止」モデルのブラッシュアップ

「人材育成」を目的としたレコメンドの実現に向けた検討

###### 2.PHR プロジェクト

PHR データへの PLSA / ベイジアンネットワークの適用

###### 3.POSEIDON/PLASMA/BAYGLE 利用促進

トライアル利用中の企業のサポート

新規問い合わせへ/申し込みへの対応

#### (6) AI リビングラボ WG

リーダー：杉山邦洋（株式会社ブイシंक）

サブリーダー：上原将司（株式会社アシストネット）

メンバー：5 名（勉強会 貢献メンバー）

##### 【活動概要】

Generative AI study group の企画運営

生成系 AI に興味を持つ方々と共に最新動向やビジネス活用方法を学び、情報共有やアイデア検討を行い、人々の生活や社会を豊かにするための活動を行います。

## Generative AI study group の企画運営

生成系 AI に興味を持つ方々と共に最新動向やビジネス活用方法を学び、情報共有やアイデア検討を行い、人々の生活や社会を豊かにするための活動を行います。

### 【プロジェクト等の活動計画】

#### Generative AI study group の企画運営

##### 1. 研究会運営費用

概要：研究会の運営体制をより安定させることを目的に、研究会の企画および各種段取り、および開催に係る業務を委託し体制を構築します

要件：

ア. 少なくとも月一度のオンラインによる研究会の企画、段取りおよび開催とそれに伴う情報発信に資する研究会ウェブサイトの記事作成と投稿等

イ. その他オフラインでの活動の企画および段取り等の実施

##### 2. システム利用料

概要：研究会の活動および情報発信等で利用する外部サービスの利用料

要件

ア. Canva pro: 研究会実施のための資料作成に利用。フリーより様々なサービスが使える

<https://www.canva.com/pro/>

イ. Soundcloud: 研究会の Web 公開用に音声データをホスティングする。フリーでは容量制限があり既に上限まで使用しているため、有料契約で上限なしでホストできます。

<https://soundcloud.com/>

##### 3. 出張旅費

概要：オフラインでの活動で支出する出張旅費（交通費および宿泊費）

##### 4. 謝金

概要：研究会ゲストへ支払う謝金

要件：研究会活動に資すると判断するゲストを招聘するための謝金

##### 5. ワークショップ備品

概要：会員向けワークショップの開催

より生成 AI の技術実装を ABCI の活用も視野に入れ実施

要件：企画内容により必要に応じた備品費用

## (7) WG名 : PoC LabWG

リーダー : 高橋秀明 (株式会社アシストネット)

サブリーダー : 片山敏弘 (メディカル DX リサーチ合同会社) 、太田桂吾 (株式会社 LINK.A)

メンバー : 7 名

### 【活動概要】

<AI 技術を利用したサービス・システムの社会実装に向けた実験場>

<他 WG との連携による社会ニーズの発掘とシーズ企業とのマッチング>

<ABCI 等の高性能計算機の利用ノウハウの共有>

#### ・背景と課題の変化

技術の普及 : AI のツール化・プラットフォーム化が進み、「どう作るか」から「どう社会実装するか」へ焦点がシフト。

データの質の変化 : デジタル化の進展により、課題が「データの不足」から「データの活用方法」へと変化。

#### ・今後の方向性

地域連携 WG 等、他 WG との連携強化

社会ニーズの発掘から実装までを担う「実験場 (PoC) 」としての機能確立

### 【プロジェクト等の活動計画】

1. おしゃべり AI ぬいぐるみを使ったフィールドワークへの参加
2. 地域連携 WG との共創 (大阪市水道局 DX 共創等)
3. KAWARUBA (川崎重工) との共創 (フィジカル AI 試作)

## (8) AI サービスシステム WG

リーダー : 山下和也 (産総研 人工知能研究センター)

メンバー : 10 名程度

### 【活動概要】

生成 AI に学習されていないリアルワールドデータを、サービスを提供しながら、取得し、それによりデジタルツイン (モデル) を構築する。そのモデルより、確率推論を行い、更なるサービスを提供し、KGI の達成を目指す活動を行う。さらには、そのモデルを人が解釈することで、本来のより高次の KGI を見出す PDEM スパイラルアップを目指す。それにより価値を生み出し続ける。

### 【プロジェクト等の活動計画】

#### 1.健康屋台 PJ

健康屋台で常連と新人、主催者がともに価値を生み出す

#### 2.他 WG 連携 PJ

西伊豆や、資源回収の拠点、または地域拠点などで、そこに関わる住民、観光客の様々な立場な人がともに価値を生み出し続ける

#### 3.サイエンスアゴラ PJ

イベントの現場で、来場者、出展者、主催者の価値を生み出し続ける

## (9) 関西支部 WG

リーダー：西田 昌弘（大阪商工会議所）、田中 城土（大阪商工会議所）

### 【活動概要】

AI に関する動向や事例、活用方法等の情報を継続的に提供し、AI の普及、活用を促進するとともに、具体的なプロジェクト創出に向けたビジネスマッチングや実証支援を行うことで、AI 関連産業の活性化を推進する。また、「AI クラスター」に登録する企業や、AITeC 会員企業等の人材交流につながる企画を実施し、AI 活用の担い手となる人材の育成に寄与する。

### 【プロジェクト等の活動計画】

1. 次世代テックフォーラム AI クラスターとの連携（年度内 3 回程度の実施を想定）
2. AITeC 主催イベント等への協力（随時実施）

## (10) 神戸支部 WG

リーダー：狩野恒一（株式会社コベルコ科研）

サブリーダー：竹下竜介（神戸商工会議所）

メンバー：3 名

### 【活動概要】

神戸・兵庫エリアにおいて主に地元企業の参画を目的とした社会実装プロジェクト支援を行うとともに、AITeC 活動の広報を行う。また、地元企業を主な対象とした AI 技術にかかわるネットワーキング構築をミーティングイベント等を通じて推進する。社会実装プロジェクト探索においては他WGとの連携による活動にも注力する。

### 【プロジェクト等の活動計画】

1. 社会実装プロジェクトテーマの探索（地元企業とのミーティングを通じて）
2. 神戸支部イベント、他WGとの連携イベント

## (11) 地域連携 WG

リーダー：片山敏弘（メディカル DX リサーチ合同会社）

サブリーダー：渡辺健司（立命館大学） 関西広域担当

アドバイザー・サポーター：大江氏、豊田氏

メンバー：6 名

### 【活動概要】

#### 『地域創生 DX 推進』

地域社会・経済、コミュニティを、実社会データで AI 最適活用により再定義/デザイン/実践し、人口減少社会における持続可能な経済循環と、共助の絆を再起動させる。

（国の地方創生政策との相加・相乗効果にも繋げたい）

#### 『WG 横断的活動によりコンソーシアムの活性化に貢献』

地域拠点、地域 WG の創出、育成に寄与、その仕掛け作りを率先・垂範する。

活動への賛同者をチームに巻き込んでいき、さらなる賦活化をリードする。

#### 【プロジェクト等の活動計画】

『地域創生 DX 推進』×『WG 横断的活動によりコンソーシアムの活性化に貢献』

(1) 地域創生 DX 推進支援（北秋田まちづくり観光事業） \* アクセラレーション with PoC LAB  
KPI = プライマリエンドポイント案 1. 開発アプリ設置件数/売上 \* 件/円 2. ユーザ数 人/件 3. 他  
検討

(2) 地域発社会インフラ課題解決（大阪市水道局 DX） \* 継続案件 with 深層学習 WG  
KPI = 太田氏、渡辺氏、水道局生島氏との打ち合わせにより決定

(3) GASG 共催公開セミナーイベント（大阪市、各地域拠点） with PoC Lab WG  
KGI = 一回以上/期 GASG の趣旨にマッチした、あるいはニーズに基づき人材を供給する。

その他：国際交流事業（KHTP / 技術、人材）（草案）

コンソーシアム会員・WG としての成果目標

- 各プロジェクトの成果目標達成（各々 KPI 設定）
- 活動趣旨に賛同する主体の新規会員化（一般：3 社、特別：2 団体 \* 「特」は「一」を上回らないこととする）
- 主催(共催)イベント、一回以上。
- 各プロジェクトの年間アワードにエントリー、発表、受賞。

#### (12) 教育 WG

リーダー：林 兵馬（国立大学法人神戸大学附属中等教育学校）

サブリーダー：林 宏樹（雲雀丘学園中学校・高等学校）

##### 【活動概要】

AI・DS を教育のコンセプトに活用・実証することを目的とする。

##### 【プロジェクト等の活動計画】

1. データサイエンスコンテストの開催
2. 教育での AI 活用の検討
3. 生成 AI を用いたワークショップの開催
4. AI JAPAN カップ
5. ジュニア用 AI 辞典
6. 産官連携 AI 活用マッチングイベント

#### (13) 九州支部 WG

リーダー：藤田 祐介（一般社団法人サステナビリティ・DX 推進協議会）

メンバー：4 名

個別支援者：1名

【活動概要】

2025/7/4 より支部引継ぎを受け Reboot

- ・通年：北九市との DX, GX 推進業務
- ・引継ぎ：バリューデザインシートのラップアップ、生成 AI を活用した改善、汎用化
- ・独自の RAG 等研究があるため、一部共有、共同作業（主にデータマイニング WG）
- ・上記に拘らない新たな活動提案（Well-Being の実態把握セミナー実施等）

【各プロジェクトの活動計画】

- 1.通年：北九市との DX, GX 推進業務
- 2.2025/12/23 応用数理学会：応用ものづくり研究会セミナー
- 3.2026/2/5 公益社団法人企業情報化協会後援（ウェビナー）登壇
- 4.2026/2/20 公益社団法人企業情報化協会 福岡視察支援、セミナー（データマイニング WG：湯浅氏、稲葉氏同行）
- 5.2026/3/19 産総研 AITeC、北九州市、ウイングアーク1st 共催：脱炭素/AI セミナー

(14) 東海支部 WG

リーダー：片山善寛（株式会社アシスト）

【活動概要】

東海地区における AI 利活用事例・情報の共有を通じ、同地区における AI 社会実装を推進する

【プロジェクト等の活動計画】

1. 東海地区の各種団体と連携したイベントの開催
2. 個別テーマ検証ニーズに対する支援活動及びワーキング化推進支援

(15) 観光 WG

リーダー：鄭 鉉澈（株式会社静岡銀行）

サブリーダー：雛倉 聖明（株式会社エヌ・ティー・ティー・データ研究所）

メンバー数：3名

【活動概要】

- ・本プロジェクトでは、伊豆半島の西伊豆町における「観光ニーズ変化の深堀調査」向けに、AITeC のベイジアンネットワークと確率的モデル化のノウハウを活用し、自治体・観光協会・宿泊施設等に向けた政策提言を実施する。
- ・これらを通じて、新規観光客の増加やリピーターの訪問件数増加に伴う現地の中核産業である観光業の振興を通じた地域経済活性化を図る。
- ・社会実装の観点から、西伊豆町プロジェクトの成果物は、類似点を持つ他の地域に横展開を目指す。

・本プロジェクトは、令和 8 年度の内閣府「包摂 SIP サブ課題 A1」として推進するが、プロジェクト推進体制は、静岡銀行×西伊豆町観光協会×NTT データ経営研究所の連携体制で推進していく。

#### 【プロジェクト等の活動計画】

本プロジェクトは昨年 12 月、関係者キックオフミーティング開催後、毎月定例 MTG を実施する。今年 4 月以降、令和 8 年度の内閣府「包摂 SIP サブ課題 A1」としての本格的取り組みに向けて、プロジェクトの進め方やロードマップを含めた全体像は、関係者間で擦り合わせを通じて調整中である。想定される主な活動概要は下記の通りです。

##### 1. 観光客の意識・行動変容の可視化への取り組み

・観光客向けアンケート設問項目の作成、タッチパネル設置等によるデータの収集や、データ分析  
・観光客の属性（性別・年齢・嗜好など）と、現地での行動・感情の履歴を格納する ID を設定 ID と観光客の行動履歴を紐づけることで、現地での購買行動や、現地を離れた後に行った購買行動を追跡可能とする

##### 2. 西伊豆町データ分析と全国のデータとの比較分析実施

・西伊豆町データと全国的データとの比較を通じ、どの要因が観光客の行動や感情の変化に影響したのか、どの程度影響したのかを、各個人の属性ごとにクラスタリングして定量分析を実施する

・分析結果を基に、行動・感情を変容させるために必要な「施策」を推定

##### 3. データ分析に基づいた政策提言（EBPM）実施

・上記の分析結果を踏まえて、現地の自治体・観光協会・宿泊施設等向け政策提言を実施していく

##### 4. 本プロジェクトの成果に係る公表活動

・本プロジェクトの成果について情報共有や公表活動を行う

#### (16) データ・知識融合 WG

リーダー：安松健（株式会社エボルブ）

サブリーダー：阪口奨（シナジーマーケティング株式会社）

【活動概要】ビッグデータ（量的データ）と質的データ、形式知と暗黙知、AI とヒトとモノを渾然一体としてデザインすることで、サイバーフィジカルなユーザ体験(UX)の創出に取り組む。特に、生成 AI とベイジアンネットワークの統合活用にも注力していく。

#### 【プロジェクト等の活動計画】

1. 文化人類学・哲学×生成 A I のテーマでの講演会の実施

2. ノーコードでベイジアンネットワークのセミナーの実施

3. note による情報発信

ユースケース WG、社会課題解決 WG、サイバーフードWG、Human Resource WG、バリューデザインWGについては、次年度の計画は未定。

#### 4. コンソーシアムの運営

本コンソーシアムの運営は以下のメンバーから構成される運営委員会が実施する。なお運営委員は適宜追加する可能性がある。

会長：

本村陽一（産業技術総合研究所）

副会長：

豊田俊文（産業技術総合研究所）

武井明則（PwC ビジネスアシュアランス）

松岡竜大（ライズ・コンサルティング・グループ）

大江規之（株式会社コンフォワード）

運営委員：

金子奈美（メディヴァ）

鶴川健太郎（セック）

黒田由加（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング）

田島史也（PwC ビジネスアシュアランス合同会社）

小林泰之（聖マリアンナ医科大学）

石橋麻希（筑波大学）

林兵馬（神戸大学附属中等教育学校）

林宏樹（雲雀ヶ丘学園）

安松健（大阪教育大学/エボルブ）

猪谷誠一（博報堂 DY ホールディングス）

中野伊吹（大和ハウス工業）

武藤雅基（NTT データ数理システム）、湯浅麻紀子（NTT データ数理システム）

石田和宏（クリアタクト）

梅崎猛

杉山邦洋（ブイシंक）

上原将司（アシストネット）、高橋秀明（アシストネット）

片山 敏弘（メディカル DX リサーチ合同会社）

大和田智之（ウィルグループ）

西田昌弘（大阪商工会議所）、田中 城士（大阪商工会議所）

狩野恒一（コベルコ科研）

竹下竜介（神戸商工会議所）、畔上（神戸商工会議所）

片山善寛（アシスト）

渡辺健司（立命館大学）

藤田祐介（サステナビリティ・DX 推進協議会）

高岡昂太（AiCAN）

鄭鉉澈(静岡銀行)

上杉真太郎 (UACJ)

太田 桂吾 (LINK.A)

寺田侑司 (産業技術総合研究所)、山下和也 (産業技術総合研究所)、井上恵 (産業技術総合研究所)

事務局：

宮本亜希、井上繭 (産業技術総合研究所)

～2026年4月現在～ (順不同)

## 5. 年間スケジュール (予定)

全体定例会 \*詳細は別途 HP の新着情報に掲載

- ・ 第1回～第3回全体定例会 (開催日未定)
- ・ 総会、第4回全体定例会 (3月)

外部向けイベントの開催予定

## 6. 収支予算

2026年度予算は下記表の通り。

(2026年4月20日現在)

費目	金額	備考
収入		
会費	7,800,000 円	100,000 円78口
合計	7,800,000 円	
支出		
WG 活動費(加速費を含む)	1,045,610 円	内訳は次ページ別表に記載
運営費(人件費、会場費、役務等)	6,754,390 円	
合計	7,800,000 円	



別表. WG 活動費(2026/3/6)

2026 年度 WG 予算計画	計画予算 合計	<内訳> 消耗品費	<内訳> 備品	<内訳> 出張旅費	<内訳> 謝金	<内訳> 会場費	<内訳> 計算機使用料・ サブスク	<内訳> 役務
1.Human Life	0							
2.ものづくり	37,395						37,395	
3.社会課題解決								
4.ユースケース								
5.医療・ヘルスケア								
6.サイバーフード								
7.観光	40,000			40,000				
8.教育	360,000	20,000		340,000				
9.データ・知識融合	50,000			50,000				
10.データプラットフォーム								
11.データマイニング								
12.AIツール								
13.AIリビングラボ	190,000			100,000	90,000			
14.PoC Lab	220,000			0			220,000	
15.関西支部								
16.九州支部								
17.東海支部	37,395						37,395	
18.神戸支部								
19.AI サービスシステム	30,820			30,820				
20.Human Resource								
21.バリューデザイン								
22.地域連携	80,000			80,000				